

2015 年度
住居学科のイベントなど日本女子大学 オープンキャンパス／入試相談会
住居学科は目白キャンパスです！

2015 年度は下記日程でオープンキャンパス、入試相談会を実施しています。

オープンキャンパス

6/14 日

10:00～14:30

8/9 日

10:00～16:00

9/20 日

10:00～14:30

入試相談会（学園祭）

10/17 土 - 10/18 日

12:30～15:00

オープンキャンパスではキャンパス見学ツアー、個別相談会、学科紹介展示などを行っています。住居学科の学生がご案内しますので、受験生の方は受験についてや学生生活についてなど、気になることをぜひ聞いてみてください！

住居学科 学生の皆さんへ

オープンキャンパスに参加してくれる学生、大歓迎です！
オープンキャンパス委員でなくてもOK！ 詳細は住研 江川まで。

国際ハウジングワークショップ 2015
日程：8/24～9/9

ハウジングワークショップは、毎年夏期休暇に行われている台湾淡江大学他との2週間にわたる合同ワークショップです。国は異なりますがアジアに共通する住宅課題をテーマにしています。今年のテーマは、"Transition - A temp home for Moving on"で、台湾から淡江大学と逢甲大学、中国から西安建築大学、天津大学、日本から日本女子大の参加予定です。夏休みを利用してあなたも台湾、中国の学生と共に設計課題に取り組んでみませんか?! ワークショップの最後には、エクスカッションもあり、国、学年を超えた交流が醍醐味です。

詳細は百年館 12 階の掲示板を確認して下さい。



昨年の WS 最終講評の風景



昨年のエクスカッション（飛騨高山）

ヨーロッパ住宅・建築研修 2015
8月下旬 12日間

ヨーロッパ研修旅行を今年も開催します。今回は住居学科 平田京子教授が同行し、イタリア・フランスを中心に歴史ある都市や建築の名作を巡ります。住居学科卒業生で世界で活躍されている建築家、妹島和世さん設計のロレックス・ラーニングセンターも視察します！

参加説明会を行います。興味のある学生は気軽に参加してください。説明会の日時、旅行日程などの詳細は、住居学科掲示板にあるパンフレットをご覧ください。



過去の研修旅行より

飯尾昭彦教授 鈴木賢次教授 が、 2014 年度 2 月に最終講義を行いました。

永年、研究と教育に情熱を注ぎ、住居学科の発展に尽力された、飯尾昭彦教授、鈴木賢次教授が、この春定年を迎えられました。

最終講義は2/28に目白キャンパス八十年館で行われ、先生との別れを惜しむ学生や卒業生など大勢集まり、盛大な会となりました。

先生方から住居学科で学ぶの学生の皆さんに向けたメッセージをいただきました。



飯尾教授(左)、鈴木教授(右)の最終講義の様子

飯尾昭彦教授より

住居学科で学んでいる皆さんへ

日本女子大学に25年間勤めこの3月で定年退職いたしました。住居学科を去るに当たり私なりに感じたことをいくつか申し上げておきたいと思います。

まず、住居学が関係する分野は非常に幅広く関係しないものはないと言ってもいいくらいですが、直接関係しないものでも何でもいいですから自分が興味を持つものがあつたら、(自慢できるくらい)積極的に追及してください。直接就職などに結びつかないとしても将来役立つことがあると思います。

もし、自分を高めること、将来につながるなどがあつたら積極的に挑戦するべきです。挑戦しないと後悔しますし、若い時の1, 2年のブランクは全く問題ありません。

また、就職して最初はかなり厳しい状況に置かれますが、社会勉強や実務・技術を身につける段階です。若いうちはまだ修行中のようなものです。そこで身に付けたものは自分を高め、自分の価値として将来評価されるようになります。

とにかく、目標を掲げ住居学科卒業という誇りと信念を持ち頑張ってください。ただし、身体を壊さない程度にということには気をつけて。ご活躍を祈っています。



鈴木賢次教授より

2015年3月をもって定年退職をむかえました。31年間、皆さんと過ごせたのは、とても幸せでした。「自発創生」、「信念徹底」、「共同奉仕」の精神に包まれたからです。日本女子大学は男尊女子の不平等な逆境を乗り越えてきた歴史がありました。本学出身の先輩たちのその歩みこそ本学の宝です。

近年では、女性の社会進出は目を見張るものがあります。今日、これまでの恩恵を受けて若者が伸び伸びと勉学に励んでいる光景が本学にあります。そのような逆境という意識は現在では希薄になりつつあります。

住居学科での教育は、住まい手の立場を掲げて、造り手の立場を向こうにまわし、社会での自立に立ち向かう力を育ててきたと思っています。私が在籍した期間、そのことの意義の大きさを実感する毎日でした。私はそれを目の当たりにして、勇気をもらい続けてきました。

住居学科での学びの対象は人間生活の場が基本になっています。社会の様々な分野で生かされるはずで、仲間たちと学びあい、見聞を広め、切磋琢磨して、各人各様の個性が開くことを願っています。



住居学科スタッフより



鈴木 真歩 助教

2014 年度 3 月末に退職されました。

このたび、6年間助教として勤務した日本女子大学を退職いたしました。

在職中は学科全体の運営業務のため中央研究室にいる時間が主でしたが、2012年より担当した講義科目「住居学概説」でその年の1年生全員にお会いできるという貴重な機会を得ました。そこではまだ高校生同様の初々しい新入生が、前期を通じてよくもわるくも(?)住居学科の学生らしくなっていく姿が興味深かったです。現在、私は子育てをしており、子育てとは人生をもう一度たどらせてくれるような体験だな、とふと感じることがありますが、出身校で教鞭をとるといってもそうした面があり、大変感慨深いものがありました。

ここで一旦退職の御挨拶をいたしますが、今年度後期については、西洋住居史と西洋建築史の非常勤講師として1, 2年生にお会いする予定です。また今後も住居についての研究・教育活動は続けていきたいと思っております。みなさん全員が住居・建築の専門家になるわけではないと思いますが、当学科に入ったからには人並み以上には住居に関心を持っているということ。またなにかと縁があるかもしれませんので、その時はよろしく願いいたします。